

拝啓 今年も早や 11 月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、きれいな紅葉の樹があります。

今回は新渡戸稲造先生の最終回、「信仰経験をかたる」という講演録から引用です。

この講演録は、いまから 15 年ほど前、当時勤務していた財団法人の出張で札幌に行ったとき、札幌独立教会の『100 年の歩み』で見つけた講演で、宮部金吾先生など、昔からの親しい友人を前にして、信仰に入門したころの真情が隠さず述べられています。「キリスト教に処女降誕、復活等の教義について、どれとして私の頭に入ったものが無かった。私はキリスト教を信ぜんがためにどれほど頭を悪くしたか知れぬ」とあります。新渡戸稲造先生でさえ、そうであったか、と思いました。小西芳之助先生が言われるように、キリスト教は、「難信易業」なのだと思います。

10 月 4、5 日と、本誌読者の佐藤昭夫さんと尾瀬ヶ原に行き、鳩待峠の山小屋鳩待ち山荘に 1 泊、5 日早朝尾瀬ヶ原に降りるとき、木道が一部凍っていて、2 回も滑って転んで頭を打ちました。その時は何でもなく、ハイキングを続け、3 週間くらいしてから、軽いめまいや吐き気けがあり、近くの脳神経外科に行ったところ脳内出血があることが MRI でわかり、さらに 3 週間様子を見た後、昭和大学病院に入院、慢性硬膜下血腫の手術を受けて参りました。11 日間も入院しました。24 日に退院し、平常どおりの生活にもどっております。

11 月 3 日には、南原シンポジウムのパネルディスカッションで、「南原繁の平和の平和思想から見て一憲法 9 条と安全保障」という大きな題で、25 分話し、結論として、いまの憲法は改正する必要がない、と述べました。それと、今の憲法 9 条は、マッカーサーから押し付けられて出来た条文ではなく、当時の幣原喜重郎総理大臣がマッカーサーに頼み込んでできた経緯を少し話しましたが、幣原さんに対する尊敬の念が強くなりました。

11 月 11 日(土)同志会の創立記念式で、「小西芳之助先生から学んだキリスト教」という題で、50 分話をしました。この講演は、前から頼まれていましたが、南原シンポジウムの 1 週間後でしたので、相当前から準備をしておりましたので、良い話ができたとと思います。薛恩峰先生を囲む会の皆さんには、先日原稿をお渡しをしましたが、それ以外の方々には、今回同封させていただきますので、ご覧ください。

皆様も転ばないように注意されて、冬を迎え、どうぞお身体お大切にお過ごしください。

敬具

平成 29 年 11 月 27 日

山口周三

エンカウンター of 読者各位